

## 川崎港(東扇島公園周辺)の生きもの

潜水調査、底生生物調査、付着生物調査などで  
みられた生きものを紹介します。

東公園でみられた生きもの：(東)

西公園でみられた生きもの：(西)

どんな生きもの  
がいるのかな？



### 海綿(かいめん)動物

水中の岩や海藻、動物の体などに付着して生活しており、  
海岸の磯場などの浅瀬から深海まで広く分布しています。  
海綿を乾燥させたものはスポンジとして活用されています。

#### 海綿動物門の一種 (東)(西)

形は円筒状、葉状、樹枝状など様々  
で、色も黄色、赤紫色、緑色など多種  
多様です。

体の中に含まれる骨片の形によって  
種が分けられます。



### 刺胞(しほう)動物

イソギンチャクやクラゲ、サンゴのなかまです。  
体の表面に刺胞とよばれる毒針をもっており、毒で麻痺さ  
せたり、触手でからめとったりすることで餌を捕まえてい  
ます。

#### ウミエラ目(ウミエラ)の一種 (東)(西)

個体が多数集まって一つの群体をつ  
くっており、群体の柄の部分に砂に潜  
らせて海底に立っています。

羽状の部分には多数のポリプがあり、  
ポリプでプランクトンを捕まえて食べ  
ています。



5

#### ウミサボテン (西)

個体が集まり、こん棒状の細長い  
群体をつくっています。昼間は10 cm  
程度ですが、夜間には50 cm ほどに伸  
長します。

生物発光をする生物として知られ  
ており、刺激を与えると発光します。



#### タテジマイソギンチャク (東)

1 cm 前後の小型のイソギンチャク  
で、体にオレンジ色または黄色の縦  
じまが入っています。

全国の内湾でよくみられ、岩礁や  
護岸、カキなどに付着して生活して  
います。



#### ムラサキハナギンチャク (西)

本州中部から九州の内湾でみられ  
る大型のイソギンチャクです。

砂泥底に粘液で管状の巣を作り、  
その中で生活しています。刺激を与  
えると素早く全身を巣の中に隠しま  
す。



6

## 軟体(なんたい)動物

貝やイカ、タコのなかまです。  
体は柔らかく、頭、内臓器官、足の3つで構成されています。多くの種は石灰質の殻をもっており、軟らかい体を守っています。

### イボキサゴ

東

北海道南部から九州の水深10 m程度の砂泥底に生息しています。

貝殻の様子は様々で、青灰色と黄色の縞模様のあるものや白や紫が混じるものなどがいます。

イボキサゴは環境省レッドリストの準絶滅危惧種に指定されています。



### シマメノウフネガイ

東 西

北アメリカ原産の種ですが、現在では日本各地で見られ、アワビやサザエなどの生きた貝の殻の上に付着しています。

殻は内側に隔板があるので、スリッパのような形をしています。



### ツメタガイ

西

全国の内湾の潮間帯から水深10 m程度の砂泥底に生息しており、肉食性でアサリなどの二枚貝を捕食します。

ツメタガイの卵塊は底のぬけた茶碗を伏せたような形をしているため、「砂茶碗」と呼ばれます。



7

### アカニシ

東 西

大型でこぶし状の貝で、全国の内湾の水深10~20 m付近でよくみられます。

肉食性で、アサリなどの二枚貝を捕食します。

食用として市場などで販売されています。



### アラムシロ

東

2 cm前後の巻貝で、全国の内湾の潮間帯や干潟などでよくみられます。

腐肉食性で、生物の死骸をみつけると砂の中から出てきて、むらがって食べます。



### アメフラシ

東

全国のアオサのはえているような海岸によく生息しています。

刺激を与えると紫色の液を出しますが、液に毒はありません。

アメフラシの卵塊は黄色く、細長い麺のような形をしているため、「うみぞうめん」と呼ばれます。



### トゲアメフラシ

東

相模湾、能登半島以南の海岸に生息しています。体中がトゲのような柔らかい突起に覆われており、黒褐色の輪で囲まれた青い点々が多数見られます。

アメフラシと同様に、刺激を与えると紫色の液を出します。



8

### クロシタナシウミウシ (東 西)

3 cm程度の小型のウミウシで、全国の海岸や岩礁帯に生息しています。

全身真っ黒で、ヘリの部分が黄色または青色がっています。

夏になると、海岸の岩の上にオレンジ色の渦巻き状の卵塊を産みます。



### サルボウガイ (東)

東京湾以南の内湾の潮間帯下部から水深10 m程度の砂泥底に生息しています。

アカガイによく似ますが、アカガイよりも小さく、殻の肋の数が30~34本とアカガイより少ないです。食用として用いられています。



### ミドリイガイ (東)

東京湾以南の潮間帯から水深10 m程度に生息しています。

東南アジア原産の外来生物で、日本へは1980年代に定着しました。現在では太平洋側を中心に、関東以南の広い範囲で生息しています。



### コウロエンカワヒバリガイ (東)

東京湾以南の内湾の潮間帯から水深10 m程度に生息しています。

オーストラリア、ニュージーランド原産の外来生物で、1970年代に定着しました。都市部の内湾や河口の潮間帯で優占種となっています。



### ホトトギスガイ (東)

北海道南部から九州までの内湾の砂泥底に生息しています。海底上に大群で足糸を伸ばし、マット状に生息していることがあります。殻の表面には鳥のホトトギスにみられるような斑紋があります。



### マガキ (東)

全国の淡水の影響のある河口域に生息しています。

多くは5 cmから10 cm程度ですが、20 cm程度まで大きくなることもあります。

食用として用いられており、養殖も各地で行われています。



### トリガイ (東)

北海道を除く日本各地の内湾の水深5~30 m程度に生息しています。

足の部分が食用として用いられており、東京湾や三河湾、伊勢湾、瀬戸内海などで漁獲されています。



### チヨノハナガイ (東)

北海道以南の内湾泥底に生息しており、無酸素に近い状態でも生存することができます。

殻が薄く、半透明なので体内が透けて見えます。



## サクラガイ

東

全国の内湾の水深5～20mの泥底に生息しています。

殻の色はピンク色だけではなく、白色の個体もいます。

環境省レッドリストの準絶滅危惧種に指定されています。



## ヒメシラトリガイ

東

全国の内湾の潮間帯から水深50m程度の泥底に生息しています。

殻は卵形で、殻頂付近が少し黄色みがかっています。

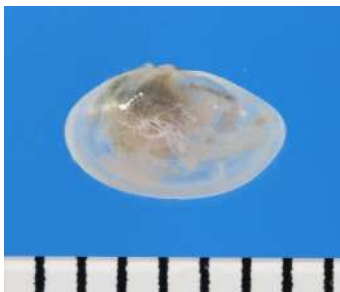


## シズクガイ

東

北海道南部以南の内湾の泥底に生息しています。

殻は薄く、光沢があり、半透明なので、チヨノハナガイ同様体内が見えます。



## マテガイ

東

東北地方以南の内湾の干潟に生息しています。

干潟に穴を掘って住んでおり、巣穴に塩を入れると、飛びだしてくる性質があります。

食用として用いられています。



11

## ホンビノスガイ

東

東京湾と大阪湾の内湾や河口の潮間帯から水深15mほどの砂泥底に生息しています。

北アメリカ東部原産の外来生物で、東京湾で急増しています。

食用として市場などで販売されています。



## カガミガイ

東

北海道南部から九州までの内湾の潮間帯下部から水深60m付近までの細砂底に生息しており、ハマグリなどと一緒に生活しています。

潮干狩りの際にアサリに交じって獲れますが、味はあまりよくありません。



## アサリ

東

全国の淡水の影響のある内湾の砂泥底や干潟に生息しています。

殻の表面は布目状で、模様は様々です。

日本では古くから食用とされており、重要な水産資源となっています。



## マダコ

東

常磐と能登半島以南の日本各地の潮間帯から陸棚上部に生息しています。

周囲の環境にあわせて体の色を変え、岩場などに隠れて生活しています。

日本では重要な水産資源となっています。



12

### 環形(かんけい)動物

ゴカイやミミズ、ヒルのなかまです。  
体はひも状で細長く、多くの環状の節をもっています。  
海や川の中だけでなく、陸上にも生息しています。

### シノブハネエラスピオ 東 西

スピオ科の一種で、全国の砂泥底に生息しており、汚れた海底で多くみられます。

体の前方に羽状のエラをもっています。



### アシナガゴカイ 東

ゴカイ科の一種で、千葉県から岡山県までに生息しており、かなり汚れた海底のヘドロの中にも生息しています。



### イトゴカイ科の一種 東

イトゴカイ科のCapiteia属の一種で、砂泥中に潜り込んで生活しており、汚れた海底で多くみられます。

見た目はミミズによく似ていて、円筒形の細長い体をしています。



### フサゴカイ科の一種 東

フサゴカイ科のStreblosoma属の一種です。泥や砂などで「棲管(せいかん)」と呼ばれる管状の巣を作ります。

体の前方に糸状のエラを多数持っています。



### エソカサネカンザシ 東

カンザシゴカイ科の一種で、九州以北の岩礁性の海岸の浅場に生息しています。

岩や貝殻などの上に石灰質の棲管をつくり、群生しています。



### 節足(せっそく)動物

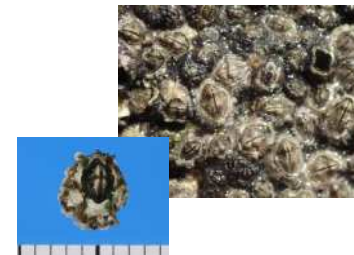
エビやカニのなかまです。

体は頭部、胸部、腹部の3部、もしくは頭胸部、腹部の2部から構成されています。表面は硬い外骨格でおおわれ、関節のある足を持っています。

### イワフジツボ 東

1 cm以下の小型のフジツボで、北海道から九州までの潮間帯に生息しています。

潮間帯上部を代表する種で、満潮線付近の岩などにびっしりと群生しています。



## タテジマフジツボ (東)(西)

本州以南の内湾の潮間帯中部を代表する種です。

太平洋南西部原産の外来生物と考えられていますが、確定はされていません。



## シロスジフジツボ (東)

津軽海峡以南の内湾の潮間帯中部を代表する種で、名前のとおり白色の肋があるのが特徴です。

低塩分への耐性があり、河口域などに多くみられます。



## ドロクダムシ科の一種 (東)

ドロクダムシ科の *Monocorophium* 属の一種で、第二触覚が大きく発達しています。

転石や海藻などの表面に泥で管状の巣を作ります。



## ユビナガスジエビ (東)

日本各地の河口や汽水域、干潟などに生息しています。

生時は半透明で、褐色の斑点がみられます。なかには体色が黒っぽい個体もいます。



## ウリタエビジャコ (東)

エビジャコ科の一種で、浅場の砂泥底に生息しています。

生時の体色は薄い灰褐色や半透明で、黒い色素がみられ、ほかのエビに比べて体全体が平らです。

肉食性でアミ類や魚の稚魚などを食べます。



## キンセンガニ (東)

東京湾から八重山列島、小笠原諸島の潮下帯から水深15mまでの砂底に生息し、砂の中に潜って生活しています。

生時、甲や脚は黄色い地色に暗紫色の斑点がみられます。



## 台湾ンガザミ (東)

相模湾以南の太平洋側と山形県以南の日本海側の浅場の砂泥底に生息しています。

食用として用いられており、ガザミとともに「ワタリガニ」として市場などで販売されています。



## タカノケフサイソガニ (東)

汽水域の転石の下などに生息しています。

ケフサイソガニとよく似ますが、タカノケフサイソガニは腹面に斑点がないこと、はさみにある毛の房が大きいことなどで見分けられます。

